

1

①

顔 色

②

外 れ

③

来 週

④

毎 朝

⑤

台 本

2

1

イ

2

④

な ら ぶ

⑥

な る

3

③

運 河

⑤

建 物

4

イ

5

ウ

6

I

2

II

1

3

1

I

人 間

II

ヤ マ キ ヤ

III

木 の 葉 の お 金

IV

買 い も の

2

イ

3

ソ フ ト ク リ ー ム

4

B

イ

C

エ

5

わ ら

配 点

1

各 2 点 × 5 = 10 点

2 ~ 3

各 5 点 × 18 = 90 点

< 計 > 100 点

1 小学校2年生までに学習した漢字から出題している。①「顔色」はここでは、顔の色つや、血色のこと。「人の顔色をうかがう」などと用いるときには表情、気持ちの表れた顔のようすという意味になる。②「外れ」はここでは、中心から離れた場所のこと。「外れくじ」などと用いるときには当たらないことという意味になる。③「来週」は今週の次の週、次週。「しんによう」を正確に書くこと。④「毎朝」は毎日の朝、朝ごと。「毎」の四画めはつき出してはねる。中の部分を「母」のようにしてはいけない。⑤「台本」はテレビ・ラジオ・映画・演劇などの脚本。台詞や動作が書かれたもの。

2

- 1 世紀は百年をひと区切りとしている。西暦一〇〇〇年が一世紀で、西暦一〇〇一年〜一一〇〇年が十一世紀である。そして今は二十一世紀である。
- 2 ことばの終わりのほうが変化するのを活用という。走れ↓走る、新しく↓新しい、元氣だった↓元氣だ、〜ように〜ようなど、もとの形である。活用することばは、もとの形を思いうかべられないと、うまく使うことができない。
- 3 ③ あとに続く部分で判断する。何にそって建物が建てられているのかと考えればよい。
⑤ 同じくあとに続く部分で判断する。住まいや店として使われているのはどこなのかと考えればよい。
- 4 戦後の復興のときに新しく建てなおす地区もあった ↓ そのため ↓ モダンな建物が多い。
(前が原因で、あとが結果になっている)
- 5 この「はじめ」はおもなものの、代表的なものということである。ただし最初のものとは限らない。よってこの部分は、国会議事堂をはじめとして政府のおもな機関がいくつもある、という意味になる。
- 6 I アムステルダムもロッテルダムも「港町」とはつきり書いてある。しかしハーグには、港や船についての説明が全くない。
II アムステルダムは「国際都市」、ハーグは「国際的な都市」とはつきり書いてある。ロッテルダムの説明には「国際(的)」ということばはないが、「ヨーロッパ最大の貿易港」とあるので、これも「国際的な都市」である。

3

- 1 「おじいさん」が「木の葉のお金」を見つけていたことや、「こだぬき」の「ぼく、あれが、また、食べたいよお」の「また」ということばがヒントになっている。
I 「こだぬき」がねだったときに「母さん」は「人間にばけ」ていた。
II 同じく「ヤマキヤに出かけました」とあった。
III 使ったのはもちろん「木の葉のお金」である。ただし買うときには「お金」になっているが「レジ」にはいつているあいだに「木の葉」にもどってしまうようである。
IV 「こだぬき」のために「ソフトクリーム」を買うのだが「四字」となると「買ひもの」である。
くびをかしげる……不思議なときや納得がいけないときにくびをかたむけるようす。
くびをよこにふる……承知しない、賛成しないことを示す動作。
- 3 「こだぬき」が「食べたい」ものである。
- 4 B 「しぶしぶ」は氣が進まずいやいやながらするようす。「母さんは、いやといえません」とあったが、いざ行くと「もしばれたら、どうしよう」と思っている。「こだぬき」にねだられてしかたなしに買いに行っているのである。
C 「もしばれたら、どうしよう」と思っているときのようなようすである。たいへんに不安なのである。
- 5 あとの「〜っていられなくなりました」から、それまでしていたことが答えになると見当をつけてほしい。また前には「しだいに」とある。これは「お金をうけとるとき」に「よく氣をつけるようにし」ていても、「いつの間にか、木の葉がまじっている」ことがくり返されているあいだに、ということである。「おじいさん」は「また、ハートの形をした木の葉がまじっていたとき」に「ふふっとわら」っていた。「おじいさん」は、一回めは「何かのひょうしに、まぎれこんだんだろう」と思い、二回めには氣のせいではないことがわかって面白いと思っている。しかし「こんなことが、なんともつづく」ようになって、あわてているのである。